

# 「ネフローゼ症候群における尿中カリウム排泄の臨床的意義」の検証に対するご協力をお願い

研究責任者 畔上 達彦

研究機関名 慶應義塾大学医学部

(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

## 1 対象となる方

西暦 2013 年 1 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの間に、腎生検を受けたネフローゼ症候群の患者。

## 2 研究課題名

承認番号 20241169

研究課題名 ネフローゼ症候群における尿中カリウム排泄の臨床的意義

## 3 研究組織

### 研究機関

慶應義塾大学病院

### 研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上 達彦

### 共同研究機関

佐野厚生総合病院

埼玉メディカルセンター

東京都済生会中央病院

立川病院

けいゆう病院

川崎市立川崎病院

川崎市立井田病院

東京歯科大学市川総合病院

### 研究責任者

(職位) 院長 (氏名) 村上 円人

(職位) 副院長 (氏名) 山路 安義

(職位) 医長 (氏名) 小松 素明

(職位) 部長 (氏名) 二木 功治

(職位) 部長 (氏名) 松田 洋人

(職位) 部長 (氏名) 安藤 孝

(職位) 部長 (氏名) 滝本 千恵

(職位) 教授 (氏名) 徳山 博文

## 4 本研究の目的、方法

ネフローゼ症候群は大量の糸球体性蛋白尿を来し、低アルブミン血症や浮腫が出現する腎疾患群です。疾患の治療反応性や予後は多様です。短期の治療で寛解に至る症例もあれば難治性の経過を辿る症例もあります。本疾患群の寛解を予測する指標はいまだ確立されていません。

そこで、我々は今回尿中カリウム排泄に注目しました。尿中ナトリウムとカリウムの比率が腎機能の悪化と関連することが近年注目されています。また、尿中のナトリウム排泄率がネフローゼ症候群の寛解を予測する因子であることが近年発表されました。しかしながら、ネフローゼ症候群の患者において尿中カリウム排泄にどのような臨床的意義があるかは未だ報告されておられません。尿中カリウムは簡便に測定が可能であり、ネフローゼ症候群の寛解および腎機能の推移の予測の一助となる可能性が期待されます。そこで今回私達は、ネフローゼ症候群において腎生検時の尿中カリウム排泄指標（尿ナトリウム/カリウム比や尿カリウム排泄率）と寛解や腎機能推移が関連するかどうかを解析させていただきます。具体的には、尿蛋白の完全寛解、尿蛋白の不完全寛解 1 型、腎生検から 6 か月後および 1 年後の eGFR の値などを評価させていただきます。

## 5 協力をお願いする内容

西暦 2013 年 1 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの間に、腎生検を受けたネフローゼ症候群の方のデータを使用し、尿中カリウム排泄と臨床経過の関連を評価するための解析を行わせていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。

## 6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

## 7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究責任者 畔上達彦 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: t.azegami-1114@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第 2・4・5 週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分]をお願いいたします。

以上